

（公社）日本給食サービス協会会長賞

『今の給食・昔の給食・家族の思い出』

京都府京田辺市立普賢寺小学校 五年 男子 中西 康太

「明日の給食は何かなあ。」

と、こん立表を見てワクワクする毎日。ぼくは、学校の給食が楽しみです。給食が大好きです。ハンバーグ、からあげ・あじフライ・カレーピラフ・フルーツと大好きなメニューもたくさんあります。おいしい給食を食べると元気が出ます。調理師さんが心を込めて作ってくださっているからだと思います。

ぼくの学校は、生徒が七十人ほどなので調理師さんは二人です。その調理師さんが、学校の給食で使う野菜の一部を学校の畑で作ってくださっています。例えばキュウリ、カボチャ、ナスなどです。転校する前の学校では、そのようなことがなかったので驚きました。ぼくが、おじいちゃんとおばあちゃんの畑を手伝った時、草抜きや水やりをして、野菜を育てる事は大変だと感じたので調理師さんが大変な作業で育ててくださった野菜を給食でいただける事にとっても感謝しています。みんなで育てた野菜も給食に出ます。五年生は黒豆やカボチャを作っています。調理師さんがどんな料理にしてくださいのか楽しみです。

ぼくは夏休みに、新聞や給食だよりにのっていたレシピをみて何度か食事を作りました。給食だよりにのっていたマーボーナス丼が特に好評で家族に喜んでもらえたのでうれしかったです。でも家族の分だけでも時間がかったので、決まった時間に大量の給食を作るという事はとても大変なことだと思います。

ぼくたちは、マーボーナス丼を食べながら家族で給食の話をしました。ぼくが、「ご飯の日の方が多くて、パンはチーズパンバターロール、黒糖パンなど種類が多くて、食パンの日も手作りジャムがつくよ。」

と言うとみんなにうらやましがられました。お父さんとお母さんの好きだったメニューは全く同じで、きなこパンとわかめご飯でした。二人とも焼かない食パンに固いマーガリンを塗るのが好きではなくて、マーガリンを手でやわらかくしたり、おかずの器の下で温めてやわらかくしたけれど、うっかり温めすぎて液体になってしまった話などを聞かせてくれました。おばあちゃんの給食は脱脂粉乳と汁物とコッパンだったそうです。昔はパンよりご飯を食べているイメージだったのでおどろきました。脱脂粉乳や小麦粉は、戦後の支援物資だったそうです。おじいちゃんの子供の頃は給食がなかったそうです。お父さんが戦死して家族四人が食べるだけでも大変で、食べられる事だけで感謝の気持ちだったと話してくれました。ぼくは、三食しっかり食べるのが普通のことだと思っていただけで、そうでは、なかった時の話を聞いて食べ物は大切にしないといけないと思ったし感謝の気持ちで元気に「頂きます」と「いただきます」を言うようにしようと思いました。ぼくはみんなの給食の思い出を聞いてよかったです。